

坂井輪中学校区内小学校適正配置 地域検討協議会たより

提言書(案)作り委員会の概要報告

先回の地域検討協議会でお示した「坂井輪中学校区内小学校適正配置に係る提言書」の素案に対し、自治会やPTA、地域の皆様からたくさんのご意見をいただきました。その中でも、「修正の必要が無い」或いは「若干の修正のみ」という意見が多かったことから、提言書(案)作り委員会として提言書の最終案をまとめるにあたり、大きな方針転換は行わないこととしました。

ただし、新通小学校が移転することに対する心配や、対応の緊急性を訴え通学区域変更を優先して欲しいというご意見も多かったことから、そのような不安を少しでも解消できるよう、提言書に追加修正を加えることにしました。

主な修正点

- ・提言の要件に『児童が安心して通学できるよう、通学路の整備をすること。』を追加
新通小学校から坂井東小学校へ通学区域が変更となったり、新通小学校が移転したりすることで、通学路の変更や通学距離が長くなることを心配されるご意見がありました。委員会としても、通学の安心・安全は大切なことと考えました。
- ・提言の前文に『要望がより成果を上げるよう、早急にコミュニティ協議会内に関係自治会、PTA等からなる通学区域変更準備推進委員会を設置していただきたい。』を追加
提言の実効性をより高め、新通小学校の過密化を早急に改善するため、地域としても通学区域変更について協議していく必要があると考えました。また、上記の通学の安心・安全についても、地域やPTAの意見を反映させたいと考えました。

また、新通小学校を分割し、新たに学校を新設して欲しいというご意見もいただきましたが、大規模開発が行われた地域ではこれまでの児童数の急増から一転して減少に転ずるといったデータを付したご意見などを参考にさせていただき、未来に学校統合という不安の種を残したくないと考え、より現実的な移転改築を要望することにしました。

第4回地域検討協議会(9月16日)の概要報告

提言書(案)作り委員会から提言書の最終案が示され、協議を行いました。

緊急的な対応を優先すべきであるというご意見をいただき、要件の記載順を変更するとともに、新通小学校の移転先を『西側』に限定する記述から『適地に移す』と改めました。

また、地域検討協議会として直接新潟市や新潟市教育委員会に要望書を提出してはどうかというご意見をいただきましたが、協議の結果、当初からの予定どおり坂井輪中学校区コミュニティ協議会に提言し、坂井輪中学校区コミュニティ協議会から要望書を提出していただくことになりました。



坂井輪中学校区コミュニティ協議会に提出した提言書は、中面をご覧ください。

問い合わせ先：坂井輪中学校区内小学校適正配置地域検討協議会事務局

新潟市教育委員会 教育総務課企画室 TEL 025-226-3178

これまでの取組は、新潟市のホームページに掲載しています。

URL <http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/tekisei/TekiseiSakaiwa.html>

坂井輪中学校区内小学校適正配置に係る提言

坂井輪中学校区内小学校適正配置地域検討協議会

1 はじめに

日頃より地域発展のためにご尽力されていることに敬意を表します。

さて、現在、坂井輪中学校区内にある新通小学校と坂井東小学校の2校の学校規模にアンバランスが生じており、地域の大きな課題となっています。

新通小学校では、西側地域の大型開発が影響した、急激かつ大幅な児童数の増加により、現在児童数1,000人超の市内最大のマンモス校となり、3年前に校舎の増築が行われた後、今また繰り返し教室不足の事態を迎えています。

一方、この間、坂井東小学校では、現在約390人までに児童数が減少し、空き教室が生じてきています。

そこで、現在抱えている(1)両小学校の課題の解決を第一に考え、(2)自治会と関連する課題、(3)まちづくりと関連する課題を含めて、地域として十分考慮し解決を図る必要があります。

2 現在抱える課題

(1)両小学校の課題

新通小学校では、5年前と比較して全校児童が約300人増加し、本来特別教室として使用していた部屋を、急遽、教室として使用しなければならない状況となっています。更に来年度には、校舎を増築したにも係わらず、プレハブ校舎で対応せざるを得ない状況となっています。

また、学校規模に対して体育館及びグラウンドが狭いことから「入学式・卒業式等の式典が全校児童でお祝いできない」「本来であれば全校で行う行事を単独や2学年ずつで行わなければならない」「運動会で児童の待機場所や保護者の観覧スペースが確保できない」等の弊害や、余裕教室が全く無いことによる「少人数指導等のきめ細やかな指導を行いにくい」「ボランティア室や地域との交流スペースが確保できないため、地域に開かれた学校づくりが進めにくい」という支障があり、今後しばらく児童数が増加傾向にあることから、教育環境の改善も図られない状況が続きます。

一方、坂井東小学校では、児童数が減少し、相当数の空き教室が生じています。

(2)自治会と関連する課題

現在の通学区域において、同じ自治会であっても違う小学校に通う事態が生じています。

このことにより、学校行事や町内行事の日程が合わないなど、自治会の子ども活動に支障が生じているだけでなく、子どもたちの健全育成や保護者同士の連携においても支障があります。

(3)まちづくりと関連する課題

学校は、本来の教育活動の場であるだけでなく、地域住民のコミュニティ拠点や災害時の避難場所でもあります。

しかし、両小学校が非常に近接していること、また、中学校区西側にコミュニティの拠点となる公共施設がないことから、住民の利便性においてアンバランスが生じています。

3 協議の要旨

坂井輪中学校区内小学校適正配置地域検討協議会では、これらの諸課題を包括的に解決すべく、特に次のことに配慮し協議を重ねて参りました。

- (1) 公教育を行う上で、子どもたちにとって公平で良好な教育環境を創り、十分な教育活動が行えるよう、両小学校の学校規模をできるだけ適正にすること。
- (2) 子どもたちの通学の安心・安全を確保するため、通学距離や通学時間の平準化を図り、居住地から近い学校に通学できるようにすること。
- (3) 老朽化して手狭となっている新通小学校の校舎、体育館などの学校施設を、子どもたちの教育活動に支障が出ないよう、早急に建て替えること。
- (4) 現在、両小学校区に跨る自治会が存在し、地域活動に支障を来していることから、できるだけ1自治会1小学校区とすること。
- (5) 地区内の公共施設立地のバランスを考え、小中学校の無い西側に学校を設置すること。

上記の協議をふまえ、以下に提言をまとめましたので、実現に向けご検討下さいますようお願いいたします。

【提言】

将来の学校配置について地域としての要望を反映させるため、地域の総意として新潟市と新潟市教育委員会に対し、下記のような要望を早急に提出していただきたい。

また、下記要望がより成果を上げるよう、早急にコミュニティ協議会内に関係自治会、PTA等からなる通学区域変更準備推進委員会を設置していただきたい。

記

地域の将来を担う子どもたちがのびのびと学び育ち、また、円滑な自治会活動と発展的なまちづくりができ、両校がより一層地域から愛され未来の子どもたちにも誇れる学校となるよう、次の要件を満たすような学校の適正配置を要望します。

《要件1》緊急的な対応として、新通小学校区内自治会に平成25年度からの坂井東小学校区への通学区域変更や学区外就学認可地域（希望により申請のあった児童だけ坂井東小学校へ通学）を奨励すること。

《要件2》新通小学校を現在地から適地に移し、それに合わせて新通小学校と坂井東小学校の通学区域を見直し、両校の学校規模や配置が適正となるようにすること。

《要件3》通学区域の見直しにあたっては、新通小学校の過密状態を一刻も早く緩和するため、移す場所が確保され次第実施するものとし、特に次のことに留意しながら地域の意見を十分に聞くこと。

- (1) できるだけ1自治会の学校区が分断されないよう配慮すること。
- (2) 在学中の児童を無理に転校させることのないよう新入生から段階的に移行すること。
- (3) 兄弟姉妹が別々の学校に通学することのないよう暫定的に学区外就学を認めること。
- (4) 児童が安心して通学できるよう通学路の整備をすること。

《要件4》児童数の増加に伴う坂井東小学校の教育環境を崩さないよう、学校施設を必要に応じて改修や増築を行うこと。

《要件5》関連する自治会、地域住民、保護者に対して十分な説明を行い、混乱を招かないようにすること。

なお、万が一、移すことが困難な場合は、現在地において児童が伸び伸びと学習活動ができる学校施設に改築を行い、完了するまでの間、教室数の不足が生じないようプレハブ校舎の設置や各種行事における近隣施設の借り上げなど、余裕のある教育環境を確保することで、新通小学校の教育環境の改善が図られるよう、教育委員会に対して強く要望していただきますようお願いいたします。